

教科名	国語科	週時間数	4時間	学年	1年
使用教科書 及び 副教材等	「国語1」(光村図書)、「中学書写一・二・三年」(三省堂)、たびたび漢字練習帳(正進社)、国語の学習(明治図書)、すらすら基本文法(浜島書店)、学習の達成(新学社)、書き方レンジャー(正進社)				

学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ことば(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、言語に対する知識・技能)に関心を持ち、日常の言語活動に活かす能力を身につけることをねらいとしています。 ことばで物事をとらえ、考え、そして表現する力を伸ばすことをねらいとしています。 題材を通して、自分の内面を見つめ、社会生活を豊かにすることをねらいとしています。 				
目指す姿	支え合う	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に対して、これまでの学習を想起しながら身に付けた知識や経験をもとに、自分の考えをもったり、それを言葉を使って(言葉の意味、働きなどを考えて)伝えたりする姿。 ○グループ活動などを通じて、自分の考えを他者に伝えるとき、他者の考えを受け入れ、相違点や共通点について考えようとする姿。 			
	高め合う	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向けて、自分の考えと他者の考えを比較したり推論したりする中で、新しい考えに気付くことができる姿。 ○話し合い活動などを通じて気付いたことをもとに、自分の考えを見直したり新しい考えをもったりすることができる(それを言葉を使って話したり書いたりすることができる)姿。 			
学習の進め方	<p>【学習への取り組み姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題に対して自発的に考えたり、ノートやプリントなどを工夫してまとめたりしながら、進んで授業に取り組みましょう。 ○話しことばや書きことばを理解し、場面に応じた使い方ができるようになるとともに、円滑な交流の仕方を身に付けましょう。 ○様々な体験、事実、意見を正しく伝えるために、豊富な語彙を身に付け、ことばで表現できる力を身に付けましょう。 <p>【家庭学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書を音読し、意味のわからないことばは辞書で調べ、用い方を知った上で短文を作るなど理解を深めましょう。 ○漢字は形、書き順、読み方、意味を覚え、正しく使えるようにしましょう。 ○日ごろから読書に親しみ、知識を広げ、言葉の感性を磨きましょう。 <p>【端末の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○語句の意味や漢字、文法など、ミライシード(ドリルパーク)を使って繰り返し学習しましょう。 ○目的に応じて情報を調べたり収集したりしながら、自分の考えを整理しましょう。 				
定期テスト	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」を中心に問題を作成し、出題します。 			
	範囲 (予定)	1学期中間	「朝のリレー」、「野原はうたう」、「はじまりの風」、「文法」(文章・段落・文・文節・単語)、漢字		
		1学期期末	「ダイコンは大きな根?」、「ちょっと立ち止まって」、「空の詩」、「漢字のしくみ」、漢字		
		2学期中間	「比喩で広がる言葉の世界」、「大人になれなかった弟たちに…」、「星の花が降るころに」、「文法」(文の成分)(連文節)、漢字		
		2学期期末	「言葉をもつ鳥、シジュウカラ」、「いろは歌」、「蓬萊の玉の枝」、「今に生きる言葉」、「漢字の音と訓」、「文法」(指示語)、書写(楷書の書き方)、漢字		
学年末	「不便」の価値を見つめ直す、「少年の日の思い出」、「文法」(自立語・付属語・活用・品詞)、表現技法、漢字				
評価方法	観点	評価の方法		評価について	
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決への取り組み ・グループでの取り組み発表時の様子や成果物 ・プリント等の記入状況 ・定期テスト、小テスト 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解している。 ・テストの「知識・技能」に関する問題を80%以上解答できている。 	
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決への取り組み ・グループでの取り組み発表時の様子や成果物 ・プリント等の記入状況 ・定期テスト 		<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしていく。 ・テストの「思考・判断・表現」に関する問題を80%以上解答できている。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・プリント等の記入状況 ・振り返り活動への取り組み(シートの記入状況など) 		<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通じて、積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使おうとしている。 		

年間授業計画書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント	
1	4	詩	「朝のりレー」「野原はうたう」	5	詩のリズムを感じ取りながら音読し、表現の効果について考える。	
		物語	「はじまりの風」	6	心情の変化をとらえ、表現の工夫について着目して読み、表現のもたらす効果について考える。	
	5	ことば	漢字の組み立てと部首	2	音声のはたらきやしぐみについて、理解を深める。	
		文法	文章・段落・文・文節・単語	4	言葉の単位について知り、文の組み立てを理解する。	
	6	説明	「ダイコンは大きな根？」 「ちょっと立ち止まって」	6	段落の関係に着目しながら、文章の展開をとらえ、内容を読み取る。	
		漢字のしくみ	漢字のしくみ	2	活字の字形について知る。正しい画数や筆順を理解する。	
	7	文法	文の成分(文節の関係)・ 連文節	8	主語・述語の性質や働きを理解し、文の中での役割について理解を深める。 連文節の種類を知り、文の成分とのつながりを理解する。	
		書写	楷書	4	楷書の形の特徴をとらえ、漢字の筆遣いに注意して書く。	
	2	9	物語	「星の花が降るころに」	8	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化をとらえる。
			随筆	「大人になれなかった弟たちに……」	6	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を理解する。
10		漢字のしくみ	「部首の成り立ち」	2	漢字がどの部首に所属するかを知り、漢字のしくみについて理解を深める。	
		説明	「言葉を持つ鳥、シジュウカラ」	6	文章の要旨をとらえ、筆者の考えに対して、自分の考えをもつ。	
11		古文	「蓬萊の玉の枝―竹取物語から」	#	古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し古典の世界を感じ取る。	
		漢文	「今に生きる言葉」	8	訓読の仕方を理解し、漢文調のリズムを意識して音読する。	
12		ことば	「漢字の音と訓」	2	音読みと訓読みの特徴を理解するとともに、同音・同訓異字について理解する。	
		情報	情報を関連づける	5	意見と根拠などの関係に注意して、互いの発言を結び付けながら話し合い、考えをまとめる。	
		書く	行事案内リーフレット	3	集めた材料を書く目的や意図に応じて整理し、伝えたいことを明確にする。	
		文法	指示語	4	指示語の役割について理解する。	
			書写	楷書と仮名	6	楷書に調和する仮名の筆遣いや字形を気を付けて書く。
3	1	小説	「不便」の価値を見つめ直す」	8	人物の言動に注意して読み、心情の変化をとらえる。場面の展開をとらえ、表現の効果を考える。	
		詩	「大阿蘇」	6	詩の中の言葉を的確にとらえ、内容を理解する。	
	2	小説	「少年の日の思い出」	#	登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとにとらえる。	
		ことば	表現技法	4	様々な表現技法の特徴と効果を理解するとともに、文の中での役割について理解する。	
	3	文法	自立語・付属語・活用・品詞	8	文の中で品詞がどのような役割を果たしているかを理解する。	
		ことば	方言と共通語	2	地域による言葉の性質を知るとともに、方言と共通語の違いをとらえ、それぞれが果たす役割について理解する。	
		説明	「二十歳になった日」	5	必要な情報に着目して文章を要約し、内容をとらえる。	